FPU NEWS
Fukui Prefectural University

福井県立大学
Fukui Prefectural University
NO.127
2025 冬号

FPU NEWSについて
ご意見・ご要望をお寄せください。
抽選で県大グッズプレゼント!

特別企画

専門性の高い2つの学科から 看護と福祉の実践力がある人材を育成
看護福祉学部の学び

社会福祉学科：まちなかフィールドワーク

看護学科：シミュレータとICT（情報通信技術）を用いた教育

学生が案内する 団体向け「キャンパスツアー」がスタート!

本学では、学生で構成する大学広報支援員「FPU Actor」がガイドを務める団体向け「キャンパスツアー」を開始しました。本企画は、大学生活の魅力をより身近に感じていただくことを目的に、中学校や高等学校などの団体を対象に、FPU Actorが学生の視点からキャンパスを案内する新たな広報プログラムです。参加者は、講義棟や図書館、学生食堂など、普段の学生生活の場を見学しながら、FPU Actorの学生と直接交流することができます。

今後も「FPU Actorによる発信」を通じて、大学への理解を深める取り組みを進めてまいります。

2025年度福井県立大学研究シーズ集を 発行しました!

本学教員の研究シーズをまとめた冊子「2025年度福井県立大学研究シーズ集」を発行しました。商品開発など地域振興に活用できそうな研究やカーボンニュートラルなど社会課題解決のための研究まで、多様な本学教員の研究活動を分かりやすく掲載しています。共同研究や商品開発などのテーマ探しにご活用ください!

「世界で最も影響力のある科学者トップ2%」に 本学の教員5名が選出されました!

9月19日、米国スタンフォード大学とエルゼビア社が更新した「世界で最も影響力のある科学者トップ2%」に、本学から5名の教員が選出されました。多様な研究分野での国際的発信力と社会的インパクトが高く評価されました。

- **深尾 武司**（生物資源学部 生物資源学科 教授）
- **佐藤 秀一**（海洋生物資源学部 先端増養殖科学科 教授）
- **村上 茂**（看護福祉学部 看護学科 特命教授）
- **篠原 秀文**（生物資源学部 生物資源学科 准教授）
- **谷川 衝**（情報センター 准教授）

学位記授与式のおしらせ

- **2026年3月24日（火）**
- **永平寺キャンパス講堂**

※今後のお知らせは本学ホームページに掲載します。
㊐ 就職・生活支援課　TEL.0776-61-6000

本学関係者の著書紹介

ウェルダイング（死への旅路）の臨床社会学

看護福祉学部 道信 良子 教授　分担執筆
（法藏館、2025）

高齢多死社会を迎えた日本を背景に、人々の生老病死を支える医療と宗教の役割について 臨床社会学の視点から論考した学術書。第5章「家庭の医療」―高齢期を生きる人びとのヘルス・エスノグラフィ（道信良子・佐藤弘太郎）では、住民の人生と共にある家庭医療の役割や実践を考察している。

地球生命史シリーズ4 恐竜の時代 中生代

恐竜学部 安藤 寿男 教授、河部 壮一郎 教授、西 弘嗣 教授　分担執筆
（共立出版、2025）

恐竜学部教員3名を編著者とする、地質・古生物学の専門書。安藤は二枚貝化石と日本の白亜紀層、西 弘嗣（シリーズ編集委員長）は微化石、河部 壮一郎は恐竜を多数のカラー図で解説。表紙カバーに勝山市北谷産フクイラプトル・キタダニエンシスのシルエットがある。

大学生のイラショナルキャリアビリーフと就職活動との関連

地域連携センター 森本 康太郎 准教授　単著
（風間書房、2025）

大学生の就職活動におけるイラショナルキャリアビリーフを体系的に検討し、尺度開発とその心理的機制の検討からキャリア支援研究の新たな展望を示す。

中高齢者が自宅で安全に手軽にできる下肢筋力及び転倒予防運動

共通教育センター 石原 一成 教授　編著
（北陸情報教育研究所、2025）

中高齢者が体力低下を防ぎ健康寿命を延ばすために、スポーツ科学の最新知見に基づく理論と実践的な運動を紹介している。特別な器具を使わず自宅で安全に続けられる、下肢筋力強化とバランス能力向上の方法を図でわかりやすく解説している。

合理的配慮と憲法
日韓欧米各国における差別の緩和・解消の試み

共通教育センター 根田 恵多 准教授　編著
（ナカニシヤ出版、2025）

日本では障害者差別解消法によって提供が義務づけられている「合理的配慮」。諸外国においては、障害者だけでなく、宗教者や性的少数者もその対象となることがある。本書は、憲法学の観点から各国の法制度や判例を分析し、「合理的配慮」の可能性や課題を探究する。

ウェルビーイング学 理論・エビデンス・実践

地域経済研究所 高野 翔 准教授　監修・共訳
（慶應義塾大学出版会、2025）

オックスフォード大学のヤン先生の英書『Wellbeing: Science and Policy』を監修・監訳した主観的ウェルビーイングに関する本格的な教科書。主観的ウェルビーイングの測定方法や要因等の入門書となる。

ぜひフォローしてください!

福井県立大学
Fukui Prefectural University
発行／公立大学法人 福井県立大学　2026年（令和8年）2月13日発行
〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1
TEL:0776-61-6000　FAX:0776-61-6011
大学HPはこちら

専門性の高い2つの学科から 看護と福祉の実践力がある人材を育成

看護福祉学部の学び

看護福祉学部長
笠井 恭子

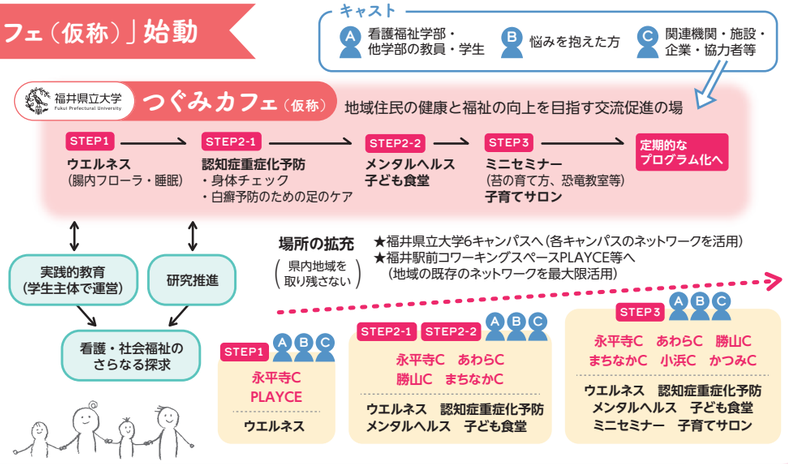
人のいのち・くらしを支える力を育てる ― 看護福祉学部の学び ―

看護福祉学部では、看護と福祉の専門性を生かし、人のいのち・くらしを支える人材を育成しています。地域や現場とつながる実践的な学びを通して、社会の変化に応え、未来を支える力を育んでいます。

看護学科では、SIM・ICTラボを活用した先進的な教育と、地域に開かれた実践の場を通し、知識・技術・判断力を備えた看護職を育成。社会福祉学科では、「誰一人取り残さない社会」の実現を目指し、地域とともに学び行動する教育を展開し、地域共生社会を支える力を育んでいます。

大学発コミュニティ「つぐみカフェ（仮称）」始動

看護福祉学部では、地域住民の健康と福祉を支える新たな取り組みとして、大学発コミュニティ「つぐみカフェ（仮称）」の開設準備を進めています。ウエルネスを出発点に、認知症の重症化予防やメンタルヘルスなどをテーマとし、誰もが安心して集い、学び、支え合える交流の場を大学が主体となり、多職種と協働して運営します。教員と学生がともに関わる実践の場として、地域とつながる学びを通じ、世代を超えて安心して暮らせる地域づくりに貢献していきます。



看護学科 対談

学生×教員

看護学科 2年
入羽 乃愛

看護学科 学科長
大島 千佳

大島学科長（以下：大島） 2年生になり、演習に加え初めて受け持ち患者さんをもつ実習が始まりましたね。実際に臨床の現場に立ってみて、どのようなことを感じましたか。

入羽さん（以下：入羽） 事前学習で準備はしていましたが、実際に患者さんと向き合うと、「今日はどんな体調かな」「どんな声かけが安心につながるかな」と、一つひとつを丁寧に考えるようになりました。毎日、患者さんの様子を記録しながら小さな変化に気づけたときは、自分の成長を感じて、とてもうれしかったです。

大島 実際に患者さんと関わる中で、自分なりに考え、工夫するようになったのですね。2年生で受け持ち患者を経験することは、看護を「自分事」として捉え始める大きな一歩だと思います。最初は不安もあったのではないですか。

入羽 はい、不安はありました。でも、患者さんとの会話が増えるにつれて、少しずつ距離が縮まっていくのを感じました。「ありがとう」「話を聞いてもらえて安心した」と言っていただけたときは、看護を学んでいて本当によかったと思いました。先生や実習指導者の方がそばで支えてくださるので、前向きな気持ちでチャレンジできています。

大島 そのような言葉を患者さんから直接いただける経験は、学生にとって何よりの学びですね。そういう経験の積み重ねが、確かな看護実践につながっていきます。仲間と学び合いながら成長できる環境を大切にし、これからも一歩ずつ歩んでいってほしいと思います。

入羽 はじめての実習を通して、「一人の患者さんを大切に思う気持ち」が自分の中で育っているのを感じました。仲間と励まし合いながら学ぶ毎日が、将来の看護師像につながっていると実感しています。これからの学びも、前向きな気持ちで取り組んでいきたいです。

社会福祉学科 対談

学生×教員

社会福祉学科 4年
増永 晴香

社会福祉学科 学科長
吉弘 淳一

増永さん（以下：増永） 吉弘先生の授業は、どのように進めておられますか？

吉弘学科長（以下：吉弘） 私は「児童・家庭福祉論」「ソーシャルワーク演習」などを担当しています。授業は「子ども中心（子ども真ん中）」を軸に、児童福祉制度や親子の関わりを、Q&A形式で学生の表情を見ながら進めています。一方通行ではなく、一人ひとりが考え、実践につなげられる参加型の授業を大切にしています。90分があっという間に感じられ、授業後に「やってみよう」と一歩踏み出せる、そんなきっかけを届けたいですね。

増永 本学の社会福祉学科の魅力は？

吉弘 学生との距離が近く、相談しやすい雰囲気があることです。教員それぞれの専門性を生かし、的確な助言ができる点も強みです。「ソーシャルワーク演習」では、私の経験を生かし、ロールプレイを通して信頼関係づくりを体験的に学びます。「受容」「共感」「自己覚知」など、実践現場を意識した授業を行っています。増永さんは4年生ということでもうすぐ卒業になりますが、学生生活を振り返っていかがですか？

増永 特に印象に残っているのは「ソーシャルワーク演習」です。実習先の「児童養護施設・児童家庭支援センター」では、子どもたちのまっすぐなまなざしの奥に、つらさや悲しみが見え隠れしながらも、前を向いて歩んでいく姿に触れ、自分自身の生き方を考えさせられました。また、保護者の悩みやつらさに耳を傾け、ともに課題解決を目指す中で、寄り添うことの大切さも学びました。この学びを生かし、4月からの新しい職場でも頑張りたいです。友人や仲間との出会いも大きな財産です。これから始まる新たな出会いも楽しみにしています。

看護学科 TOPICS

看護の学びを地域へ
― 看護学科、テクノフェア2025で研究と実践を発信 ―

10月23日、24日に福井県産業会館で開催された「北陸技術交流テクノフェア2025」に出展。教員による最先端の研究紹介に加え、看護学生が血圧測定や体組成測定を行う「からだラボ」を実施。

久米教授は認知症のある方の「痛み」を早期に察知する評価方法を、長谷川准教授は「SIM・ICTラボ」を活用した精神科看護師向けの実践的教育プログラムを紹介。学生が来場者と直接関わり、実践を通して学びを深める機会となりました。

長谷川准教授による
実践的教育プログラムの紹介

看護学科の学びを、現場へ、
そして地域へ

現場につながる看護教育
― SIM・ICTラボ活用で実践力を磨く ―

SIM・ICTラボを活用し、講義で得た知識を臨地実習へとつなぐ実践的な看護教育を行っています。多職種連携ハイブリッドシミュレータや小児シミュレータ「Sim Junior」などを用いた演習で、観察・判断・対応を繰り返し体験。遠隔演習も取り入れ、学びを継続できる体制を整えています。教員と学生が双方向にやり取りし、限られた実習機会の中でも質の高い学習を実現しています。こうした取り組みは、デジタル技術を活用した看護教育の一例として注目されています。

多職種連携ハイブリッドシミュレータ
によるグループワーク

小児シミュレータ
「Sim Junior」での事例演習

社会福祉学科 TOPICS

誰もが共に楽しめる舞台づくり
― 社会福祉学科、バリアフリー演劇に挑戦 ―

5月、地域のソーシャルワーカーや当事者団体と協働し、バリアフリー演劇を開催しました。

視覚や聴覚に障害のある方への情報保障にとどまらず、空間配置や案内表示、音声ガイドなどに工夫を凝らし、本学体育館を一つの舞台として上演。誰もが共に文化芸術を楽しめる社会を体感できる公演となり、一般来場者向けの開催は北陸で初の取り組みとなりました。

学生と関係者総勢80名を超える
スタッフで運営

300人を超える申し込みと
なるなど大盛況でした

地域に入り、共生社会を考える
― 社会福祉学科「共生社会論」の学び ―

社会福祉学科4年次科目「共生社会論」では、PBL（課題解決型学習）を通して、地域を基盤としたソーシャルワーク実践を体験的に学びます。

令和7年度は4市町をフィールドに、住民や支援者と対話を重ね、地域課題を把握。最終報告会では「共に暮らし続ける地域」に向けた提案を行いました。地域共生社会を支えるソーシャルワークが、個人や家族だけでなく組織や社会制度にも働きかける実践であることを再確認するとともに、社会福祉専門職としての価値観を育む機会となりました。

地域に出て学ぶ社会福祉学科の学生

最終報告会の様子

FPUの“推し”がつながる、広がる。研究発信の一年

初出展!

8月

大学見本市2025 ～イノベーション・ジャパン

2025年8月21～22日　東京ビッグサイト
全国から大学等シーズ291課題ほか集結する
国内最大級の産学連携イベント

生物資源学部の濱野教授・丸山准教授による「天然ポリリジンによるバイオ医薬DDSと機能繊維開発」をテーマに出展しました。天然素材ポリリジンの特性を活かした新しい医薬品送達システム（DDS）や高機能繊維の開発は、医療や繊維分野での応用が期待されます。

ジャパン インターナショナル シーフードショー

8月

2025年8月19～21日　東京ビッグサイト
国内最大級の水産・海産物の商談展示会

海洋生物資源学部・先端増養殖科学科が、現場に近い学びと地域課題の解決をテーマに研究発表。学科紹介のほか、若狭の特産品「小鯛のささ漬け」原料キダイの完全養殖開発、海面養殖とブルーカーボンの両立、小浜湾の新ブランド牡蠣「若狭こはるかき」「若狭うららカキ」の取り組みを紹介しました。さらに学生による水産業を学ぶ理由と将来への思いを発表しました。

初出展!

11月

アグリビジネス創出フェア

2025年11月26～28日　東京ビッグサイト
農林水産省が主催する、
国内最大級の農業系マッチング展示会

洪水に強いイネ、ドローンによる全自動種まき、リビングマルチ対応コムギ「LM12」、福井県ブランド小麦「ふくこむぎ」のパン試食、老化物質“AGEs”抑制研究など幅広い研究を展示し、多くの来場者から具体的な技術相談が寄せられました。パン試食は来場者からも好評で、また松井准教授による特別セミナーも実施し、高い関心を集めました。

北陸技術交流テクノフェア2025

10月

2025年10月23～24日　福井県産業会館
北陸地域の企業・大学・研究機関が集まり、
新技術や研究成果を紹介する技術系展示会

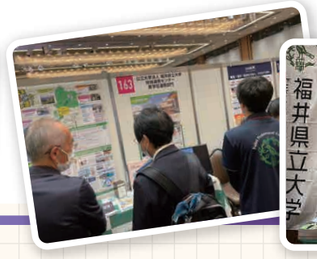
海洋生物資源学部は、日本海の海藻によるブルーカーボン研究や、サバヘしこの健康成分解析を紹介。看護福祉学部は、認知症の痛み評価法やSIM・ICTラボを活用した教育プログラムを発表し、健康チェック体験も実施しました。地域政策学部は、コーオプ実習や地域データ分析などの学びを紹介し、来場者が自分の地域データを地図化する体験も好評でした。

Matching HUB Hokuriku2025

11月

2025年11月14日　ANAクラウンプラザホテル金沢
北陸先端科学技術大学院大学主催、
北陸発の産学官金連携マッチングイベント

「地域連携センター 産学官連携部門」として出展し、産学官連携の取組みや地域政策学部の紹介など幅広い情報を発信しました。ブースには他大学、企業、自治体など多様な来場者が訪れ、新たなネットワーク構築につながりました。来場者からは本学の連携内容や6キャンパスの特色に関する質問が寄せられ、地域政策学部の「コーオプ実習」への関心も高く、理解促進の機会となりました。



第33回 白樫祭

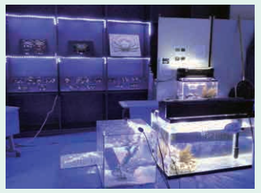
第33回白樫祭を開催しました！
来場した皆さんは、サークルや学科、地域の皆さんによるステージ発表や企画展示、模擬店を楽しんでいました。
学生の皆さんにお寄せいただいた写真を中心にご紹介します！

小浜キャンパス

10/4（土）・5（日）
開催テーマ
「KAIKYOU」

小浜キャンパスならではの
海にまつわる企画がもりだくさん！

地域の方によるマグロ解体ショー


水族館展示

書道パフォーマンス

小浜に恐竜が出現！恐竜ショー

アカペラステージ

永平寺キャンパス

10/18（土）・19（日）
開催テーマ
「CATCH THE ♥」

学生によるサークル、学科の模擬店や展示、
地元企業とのコラボ企画を楽しみました！

たくさんの模擬店で賑わいました！

ロボットと囲碁対決

恐竜博物館の再現展示

お菓子まき

エンディング

あわらキャンパス

11/3（月）
収穫祭

創造農学科の学生の成果発表の一環として収穫祭を開催しました！

農作物の販売

学生企画のキャンパス内宝探し

ジャグリング披露

FPU トピックス

濱野吉十教授が「日本放線菌学会 大村賞（学会賞）」を受賞

9月3日、生物資源学部・濱野吉十教授が2025年度「日本放線菌学会 大村賞（学会賞）」を受賞しました。本賞はノーベル賞受賞者・大村智博士の名を冠した、学術・産業的に顕著な業績を称える学会最高賞になります。

濱野教授は、放線菌が生産するアミノ酸ポリマーの生合成機構を解明し、バイオ医薬の細胞内送達という画期的な技術へ応用。また長年の研究成果を社会に還元すべく、2020年には本学初となる大学発ベンチャー企業を設立し、実用化を推進しています。

第6回アジア恐竜国際シンポジウムを開催

9月26日～28日にかけて、アジア各国で2年毎に開かれている国際学会「アジア恐竜国際シンポジウム」の第6回目が永平寺キャンパスで開催され約200名の研究者や学生が参加しました。

今回は、①アジアにおける恐竜の進化と多様化 ②恐竜とそれに関連する動物群・植物群 ③中生代の陸上生態系と環境 ④古脊椎動物学の新しい研究技術の4つのテーマで、アジア各国や欧米諸国の研究者の学術発表が行われました。

福井工業高等専門学校（福井高専）と連携協定を締結

9月29日、本学と福井工業高等専門学校との間で、連携に関する協定の締結式を行いました。本協定は、教育、研究、地域貢献、産学連携、学生及び教職員の交流において相互に協力し、地域社会の発展及び人材育成に寄与することを目的としています。

この協定の締結により、本学と福井工業高等専門学校との組織的な連携・協力がさらに増し、地域社会の発展に寄与できることを期待します。

「地方創生対話フォーラム ＠東海・北陸ブロック in 福井県立大学」開催

10月27日、「地方創生対話フォーラム＠東海・北陸ブロック」が本学永平寺キャンパスで開催されました。当日は約300人が参加し、地域での好事例が紹介されるとともに、地方創生の推進に向けた活発な意見交換が行われました。フォーラム終了後には、内閣府職員と学生との意見交換も実施されました。

鳥獣害対策と鹿の有効活用を学ぶフィールドワーク

11月8日、共通教育センター・加藤裕美准教授の教養ゼミナール「野生動物と地域社会」の受講生35名が、美浜町新庄地区でフィールドワークを行いました。学生は、近年増えるクマやシカ、イノシシによる獣害をテーマに、猟友会会長や地元猟師から講義を受けました。

森林内では、くくり罠や箱罠の仕組み、熊はぎの痕跡を見学し、捕獲された鹿の解体も体験。有害鳥獣として捕獲されるシカの約9割が破棄されている現状を踏まえ、鹿肉加工品や角・骨を活用した工芸品などのビジネス案を提案し、地域関係者と意見交換を行いました。

ビジネスプランコンテスト「M-BIP」入賞 経済学部学生が受賞

全国の大学院生・大学生からビジネスプランが集まる「M-BIPビジネスプランコンテスト」（北陸先端科学技術大学院大学主催）において、経済学部の加福リーダーを含む4人のチームが入選し、福井銀行グループ賞、マイナビ賞、テレコムサービス協会北陸支部賞などを受賞しました。

最終審査は11月13日、Matching HUB Hokuriku 2025の会場で公開プレゼンテーション形式により行われました。なお、経済学部からは藤田リーダーのチームも入選しましたが、惜しくもファイナル進出には至りませんでした。

村上茂特命教授が「越前おろしそば」の健康効果を解明

11月14日、看護福祉学部の村上茂特命教授が記者発表会を行い、郷土料理「越前おろしそば」の腸内環境改善効果を解明したと発表しました。

マウス実験で福井県産そば殻やダイコンの摂取が善玉菌増加や肥満抑制に寄与することを特定。本研究は食材の組み合わせが通常のそばより高い健康効果を生むことを科学的に裏付けるもので、地域の食文化の価値を改めて示す成果です。

福井県立大学では5社目となる大学発ベンチャー企業が誕生

本学は、情報センター・村田准教授が設立した「フクイAIシステムズ合同会社」を大学発ベンチャー第5号として認定し、11月20日に認定式を開催しました。

同社は、インターネット不要で利用できる福井県特化型チャット「フクイAI」をはじめ、企業向けAI開発や導入支援、研修を展開し、地域企業のDX推進と持続可能な地域発展への貢献を目指します。

『福井県立大学つぐみ賞』受賞者

学術研究や課外活動等で活躍した学生・団体を表彰する「つぐみ賞」受賞者の皆さんです。

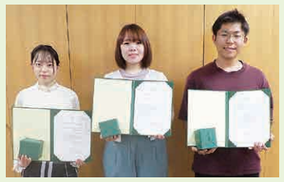
看護福祉学部 社会福祉学科2年
川端 玲奈さん

3月25日に開催された永平寺町の地域づくりイベントで、子どもと高齢者の交流やフードロス解決を企画・主導。社会福祉学科の学生も多数参加し、活動はメディアでも紹介されました。川端さんは、1年次から自治体のまちづくり活動に積極的に参加しています。

海洋生物資源学部 先端増養殖科学科3年
眞壁 喜一郎さん、**小針 渓**さん
海洋生物資源学部 海洋生物資源学科2年
川上 泰知さん、**反町 健志**さん

小浜市宇久の旅館を活用した旅館型学生シェアハウス運営が、新しい地域活性モデルの立案・実践としてメディアに紹介されました。学生たちは、共同生活の様子をSNSで発信するとともに、漁見学や魚捌きなどで実践的に水産業を学んでいます。

海洋生物資源学部 海洋生物資源学科4年
遠藤 暖風さん、**大西 優希**さん、**安居 里奈**さん



6月24日～29日に開催された「第2回おばまし芸術祭」（第44回小浜市美術展）において、全211点の応募から油絵部の3名が受賞しました。

【市長賞】遠藤暖風さん：小作品部門　絵画　作品名「黄昏時の邂逅」
【奨励賞】大西優希さん：平面部門　絵画　作品名「泡」
【奨励賞】安居里奈さん：小作品部門　絵画　作品名「摂 餌」

経済学部 経営学科4年
佐々木 陽向さん、**松澤 柚希**さん

10月5日に開催された「まち創生ソリューションコンテスト2025 in 鯖江」（鯖江青年会議所主催）において、最優秀賞を受賞しました。行動経済学（ナッジ）の理論を取り入れた「空き家無料相談会」のチラシデザインを考案し、これまで約50％にとどまっていた相談会の定員充足率を100％に引き上げるなど、鯖江市の空き家対策推進に貢献しました。

おめでとうございます！

アメリカンフットボール部 WILDERS

［代表］海洋生物資源学部 先端増養殖科学科4年
吉川 浩生さん
［副代表］経済学部 経済学科4年
小林 史さん

2025年北陸学生アメリカンフットボール秋季リーグ戦において優勝し、北陸代表として全日本大学選手権への出場権を獲得しました。全日本大学選手権の1回戦は11月8日に金沢市営球技場で開催され、北海学園大学に惜しくも49-54で敗れました。来年こそ勝利を目指します。

経済学部 経済学科2年
東山 典嗣さん、**内田 奏太朗**さん
恐竜学部 恐竜・地質学科1年
細川 心暖さん、**佐々木 凛**さん

「子どもに関わる活動をしたい」という思いから、教職課程を履修する学生4名が自転車ヘルメット着用の啓発活動を企画しました。警察署などと協働し、県内高校や地域フェスティバルで効果実験や体験談の発信を行い、若者主体の交通安全啓発として高く評価されました。

生物資源学研究科 生物資源学専攻
博士後期課程2年
芝 日菜子さん

9月10、11日に北海道札幌市で開催された日本育種学会の第148回講演会において口頭発表を行い、第148回講演会日本育種学会優秀発表賞を受賞しました。
演題：「広範囲・高分解能：イネ根系の酸素ダイナミクス観測を可能にする新二次元酸素オプトードの開発」

生物資源学研究科 生物資源学専攻
博士前期課程1年
寺尾 和香菜さん

11月3日～5日に国立京都国際会館で開催された、第98回日本生化学会大会において若手優秀発表賞を受賞しました。
演題：「細胞内pH変化に応答した神経細胞遊走の可逆的方法転換（Kibisu-gaeshi）に関する分子機序の解析」

生物資源学研究科 海洋生物資源学専攻
博士前期課程2年
宮脇 英慈さん

11月4日～8日に台湾の台南市で開催された、第5回国際魚介類免疫学会においてベストポスター賞を受賞しました。
演題：「ニジマスの組織に局在するCD4-1陽性ミエロイド細胞の特性解析」